

仲間づくり  
 生きがいつくり  
 大好きひたちづくり  
 シニアライフを  
 豊かに生きるために

# 熟年

**J-net**  
 熟年ネット・ひたち



## 第 10 回総会

### 現活動の更なる発展を

去る4月14日(木)、女性センターに於いて会員・会友45人(76%)の出席のもと、平成23年度(第10回)総会が開催された。掛札代表からは、「現活動の更なる発展を」との方針が示され、引き続き各グループリーダーから平成22年度の活動と決算報告並びに、平成23年度の活動計画と予算案の説明があり、審議の後、大きな拍手で承認された。

休憩後、各自主活動グループの活動経過並びに、今後の進め方について報告が行われ、充実した幅の広い活動が改めて確認された。

#### 代表挨拶と活動方針

昨年度の J-net 活動は、1 月号の会報に取り上げられた主なニュースの河原子海岸清掃・ハーモニカ賞・オカリナ8周年記念コンサート・『日立村物語』発行・おもちゃの病院県社協会会長表彰など充実した活動が数多く見られます。J-net の評価が高いのはこれら自主活動によるものですが、これらの活動は、みんなで作るみんなで進める楽習会の成果であり、各々の活動が積み重なって出来た素晴らしい成果です。

3月、東日本大震災により東日本太平洋側が未曾有の大災害となり、日本は最大の危機を迎えています。このような時に、自分たちの力で活動を進めている J-net 活動は、時代に適した活動と言えます。現活動の更なる発展に協力をお願いします。

毎度申し上げますが、J-net 活動は企業人が地域人に

#### 各グループ活動計画

変身するための活動でもありません。地域に疎い方たちが、自分を再発見し、自分のライフスタイルを見つけてシニアライフを心豊かに生きられるようにするため、先輩の皆様のご協力を宜しくお願いします。

シニア講座グループ 本年度も、市社協との共催、定員20名、受講料を3000円とした。

開講は大震災のために例年より遅れ6月29日、隔週水曜日全10回実施する。8月までの予定は、4面に掲載。

楽習会グループ 「皆で考えよう J-net」で提案されたテーマを整理分類し、24回の年間計画表を作成提示した。一泊研修旅行および夏季交流会は昨年同様にとりやめ、日本最古の地層・地魚料理など郷土の地域資源にかかわるものなどが選ばれた。

8月までの予定は4面に掲載。

広報グループ 会報は従来通り年4回発行。ホームページは外部へのPRに重点を置き、5月にリニューアルする。

事務局 基本的には22年度を踏襲。事務所の積極的な活用を推進。

#### 本年度役員・リーダー

代表 掛札優 副代表 畑山和子  
 事務局長 山本三男 会計 小林勇作 会計監査 藤本欣正・石井和美

シニア講座 掛札優 楽習会 山野邦雄 広報 畑山和子 女性センター友の会 畑山和子  
 役員会 掛札・畑山・小林勇・山本・山野

#### 東日本大震災義援金

##### 「ご協力有難う御座います」

3月11日(金)の午後、東日本を襲ったM9の巨大地震と巨津波は、福島原発の事故と相まって世界中が注目するような大災害となりました。

私たちの家庭もあらゆるライフラインが断たれたことと、大きな余震も加わって、考えたこともない厳しい生活となりました。しかし、日本は勿論世界中から温かい支援が広がっていることは、大変明るい光です。

私たちが、大きな被害を受けた方たちへの義援を総会に提案し承認されましたので、基金よりの5万円と、募金2万3千6百円を4月20日に義援金として日立市にお届けしましたのでご報告いたします。

代表 掛札 優

# 楽習会

## 落語を聴く

(1/13)

新春の楽習会は、昨年に引き続き「悠遊亭べやん」の落語会で幕を開けた。

演目は「初天神」と千早ふる」の2席。地域性のあるアドリブを交えた軽妙な語り



りとテンポで、大いに初笑いを楽しんだ。「初天神」では、参詣に連れて行った息子に買い物をおねだりされて悩める父親の困惑ぶりを。「千早ふる」では、知ったかぶりのご隠居さんの百人一首・在原業平の歌の珍解釈に。おかしいやら、感心するやら、時の経つのを忘れて笑ってしまった。「笑いは若さを保つ秘訣」とか。

未曾有の大震災で、なかなか先の見えない昨今、少しでも心にゆとりをもって笑いを絶やさず、今年一年を元気に過ごしたいものである。(参加者27人)

(福田 常実)

## 皆で考えよう J-net

(2/24)

平成23年度の楽習会活動をより楽しく活発にするためのテーマ選びと、年間開催日程を決めた。

年間の開催回数24回のなかで、総会などの固定テーマ、井戸端会議、日帰りバス旅行の合計9件を予め設定した残り15件を、挙手形式で事前の提案テーマから選択した。更に番外編として、休日開催する「地魚料理を学ぶ」を追加した。今回もリピートも含め様々な興味深いテーマとなったが、ボードウォッチングなどアウトドア関連の行事が増えたことが特徴と言える。

仲間づくりの拠点としての、充実した楽習会が期待される。

(参加者24人)

(福田 常実)



## 日立の桜を学ぶ

(3/10)



会友の山川敏夫さん(日本さくらの会会員)をお招きし「日立のさくら」についてのお話を伺った。

日立の桜は日立鉱山の煙害の対策として植えられたオオシマザクラから始まったこと、その後企業や市民ボランティアの手で市内各所にソメイヨシノが植えられ、現在のような「さくらの街日立」になったこと、かみね公園と平和通りが平成2年に「日本のさくら名所100選」に選ばれたことなど日立の桜の歴史をお聞きした。

休憩時間にはさくら茶と山川さんお持たせのさくら餅で春を満喫した。その後、写真と共に市内で見ることができる品種の特徴や時期、場所など「日立の桜」を楽しむための多くの情報を頂いた。

(参加者22人)

(畑山 和子)

## 桜田門外の変

(1/27)



元茨城県立歴史館資料部長の小松徳年先生にお願いして首題の講座を開催した。

これは水戸浪士による事件であったため県民

の関心が高く、昨年映画化されて永く各地で上映されたものである。県内の旧家から出た古文書や絵巻物などを基にした資料で、ユーモアを交えて話される内容に出席者は強い関心を持って聞き入っていた。(参加者34人)

(土屋 昭夫)

## 第6回井戸端会議

(2/10)

石井さんのリードで健康体操から始まり4つの班に分かれて自由に話し合いました。

テーマはなく、自分の思っていることなど多種多様な話題で、各テーブルともいつものように盛り上がっていました。私の班では、次年度の小松先生の歴史講座への希望や、タヌキの珍しい習性とかの話題も出ました。最後に各班からの発表を聞くのが楽しみなのですが、発表者に当たったらどうしようと、何時もドキドキしています。



井戸端会議とは、気軽にどんなにつまらないことでもお喋りが出来て自分なりに何かを感じて楽しい時間であればいいと思います。(参加者29人)(鴨志田 春江)

## 新交通安全講座

(4/28)

JAF(日本自動車連盟)茨城支部交通環境係長の岡田氏をお招きして、年250万件におよぶ車の救援実績を元に、交通安全協会とは違った切り口の講座を開催した。

前半はJAFデータからみた「安全運転」をテーマに三つの基本「見る」「見せる」「予測する」を事故防止の要として教えられた。後半のエコドライブは「安全確保」「交通の円滑化」「燃費向上」の三要素から成り立つとされ、新たなカーライフは車を友として楽しむことだと認識した。

(参加者28人)

(小林 勇作)



## 日帰りバス旅行

(3/31)

年度最後の楽習会として、東京スカイツリーと花王すみだ事業所の見学及び浅草周辺散策という行程で、32人が参加し実施の予定であった。東日本大震災による見学先の都合、余震や原発の不安、道路・燃料事情等を考慮し中止にした。(平田 順一)



# ボランティア・自主活動



## グループ・ピニオン 一緒に活動しませんか！

☆「ボランティア・市民活動入門講座」受講者が見学  
2月22日、市社協主催の「ボランティア・市民活動入門講座」受講者の見学会が、シニア健康センター「しおさい」で行われた。当日は火曜日で「グループ・ピニオン」の活動日ではなかったが、10人の会員で対応することができた。

20人の受講者と3人の市社協関係者は到着後、植村管理部長の挨拶を受け、2階の通路から私達の活動のひとつであるオカリナ演奏と、施設利用者との合唱の様子を見学した。次いで、植村部長による「しおさい」の内容案内と、桑名代表から「グループ・ピニオン」の活動についての説明があった。

私達の活動の全てではないが、受講者にとっては参考になったと思われる。(桑名 勇児)



2階通路から見学する受講者

## ☆平成 22 年度研修会及び懇親会開催

3月7日、「グループ・ピニオン」の研修会及び懇親会を丸市本店で開催した。当日は降雪で寒い日であったが、19人中 18 人の会員の出席があり、岩本さんの司会で和やかに行われた。

最初に、昨年暮れに亡くなられたピニオン創設者で代表でもあった田岡静子さんの御霊に黙祷し、J-net掛札代表からの挨拶の後、田岡さんを偲んでその足跡をプロジェクターで辿った。引き続き研修として、太田仁史先生の「お年寄りを理解する」と題するDVDを視聴した。次に、次期代表を選出した。

懇親会は小林さんの乾杯の音頭で始まり、楽しい雰囲気の中で懇談し、親交を深めた。(桑名 勇児)



懇親会は小林さんの乾杯の音頭で始まり、楽しい雰囲気の中で懇談し、親交を深めた。(桑名 勇児)

## Jネット・オカリナハート 芸能祭で成果発表

2月11日、金沢交流センターの第3回住民芸能祭が開かれた。当日は交流センターを利用している中から、17グループが参加し、オカリナグループも3曲演奏して日頃の練習成果を発表した。

昨年はプロジェクター用映写スクリーンを購入し、機材の充実を図った。本年もメンバー9名で練習に励み、さらに演奏曲目を増やし、各種イベントへの参加やボランティア活動に励みたいと考えている。

(土屋 昭夫)



## ウオーク会 桜川でさくら巡りウオーク

4月26日、会友・山川さんの案内で、諏訪マルト店付近の桜川から、多賀の大学通りまでのさくら巡りウオークを楽しんだ。

桜川沿いには両岸にソメイヨシノ、オオシマザクラなど数十本が植栽され、また公園もあって絶好の観桜散策路だった。その中で、ブドウの房を小さくしたような花芽を持つウワズミザクラという珍しい桜の仲間の解説にはみんな興味津々。大学通りでは、15品種70本ほどの桜花がまだ3分咲きで少し残念だったが、珍種のジョウニオイの説明に、その匂いを嗅いで納得した。

復路の公園で昼食後、早くも「来年はここで花見をしよう」と盛り上がり解散した。(山本 三男)



## おもちゃの病院 被災地の子供たちにおもちゃを！

3月11日の東日本大震災では、茨城県の沿岸地域は大きな被害を受けたが、東北3県の地震と津波は予想を超える大規模災害で、一日も早い生活の安定と復興が待たれる。

同月下旬、札幌のおもちゃの病院より各家庭から集めた玩具を被災地へ送るとの電話に、被災地の子供たちを思いやる活動に感激した。それに対しては「もっと被害規模の大きい東北3県の子どもを対象に」とお願いした。

写真は3月の北診療所で、真剣にドクターの診察を見守る坊や。玩具は大事です。(小林 勇作)



## 郷土ひたち・ネット 日立市郷土博物館で講演



1月21日から開催された日立市郷土博物館主催市民企画写真展「写真でたどる日立百年のあゆみ」の第2回講演会「日立の発展と日立製作所のあゆみ」が、3月4日、掛札代表によって行われた。

明治38年(1910)、寒村日立村の日立鉱山に、純国産技術による電気機器づくりによって日本の産業の発展を目指す小平浪平が工作課長として入社。小平に感銘して集まった若い技術者たちと多くの困難を克服して見事に世界の日立に立上げる過程を、展示写真と「ひたち郷土かるた」を取り込んで分かりやすく話した。

講演後色々な質問も出たり、楽しく聞くことができたなどの感想が寄せられた。(掛札 優)



# インフォメーション



## 「シニア地域入門講座」(6~8月)

月/日	内 容
6/29	開講式・オリエンテーション・基調講話 「これからの活動に向けて期待すること」
7/13	講話「シニアライフを豊かに生きる」 井戸端会議「心豊かに生きるために」
7/27	講話「ボランティアを学ぶ」 映画と講話「おてんとうさまがほしい」
8/10	交流センター紹介・J-net 紹介
8/24	交流会 簡単な調理(水餃子他) 井戸端会議 調理を楽しみながら交流

原則隔週水曜日 13:30~16:00

## 楽習会 (5~8月)

月/日	楽習 テーマ	場 所
5/12	井戸端会議 (第1回)	女性センター
5/26	県政出前講座	
6/09	虚血性心疾患にならないために	
6/23	井戸端会議 (第2回) 歌声喫茶時代を歌う	
7/14	市民活動の実態	
7/28	歴史講座	
8/11	井戸端会議 (第3回)	

原則第2、第4木曜日 13:30~15:30

## 避難の一夜を過して

山野 邦雄

3月11日、仙台に向うスーパー日立27号は、磯原を過ぎて間もない午後2時46分急停車し、列車は大きく揺れた。窓に映る家々の瓦が崩れ落ち、電柱が大きく揺れ傾く。繰り返すこと3度。車内は座席にすがりつく人、すすり泣く女性の声。10数分後運行再開見通しが立たないこと、7m級の津波が襲ってくることの報が入り、列車を離れ避難する。海水は6号国道を越え足元まで押し寄せたが、なんとか線路脇の5階建てアパートの階段にたどり着く。その後北茨城市関南小学校の体育館に移る。多くの地区住民が避難されていて、そこに乗客約200人が加わり、体育館は一杯になった。小学生が我々の為に椅子を並べてくれた。ライフラインが止まり、災害状況の分からないまま夜を迎える。「終戦で仰いだ星空もこのように美しかったですね」と年配のご婦人と言葉

## リレー随筆

### 白と黒の石運び

藤本 欣正

日向の蛤、那智の黒石と言えば古来中国から伝わった囲碁で、江戸時代は殿様が好んで打ったと言われていた。

私が囲碁を始めたのは高校2年生の時である。友達に誘われて休み時間にノートの1枚を切り取り、定規で線を引いて碁盤の目を作り、青、赤の鉛筆で丸を書いて遊んだのが始まりで、以来60年以上になる。

当時義兄も少し碁の心得があって、碁石を何処から調達し、ベニヤ板で碁盤を作り相手をしてくれたおかげで少し腕が上がった。

日立に来て設計に配属され、早速先輩達にお願いし、工場の碁碁部に12級で入部した。碁碁部内の大会や外部との試合等で腕を磨き、最初に出来た日立市長杯のCクラスで優勝した。昭和30年に実力2級に上がった時、プロ五段の指導碁で認定を受けてアマ初段を取得した。

その後の碁碁仲間は、要職について居る人が多く、好敵手が居なくなって足が遠のいた。でも碁碁を打つのを止めたわけではなく、部対抗の碁碁大会に出たり、しも手の人に何目か置かせて相手をした。

60歳近くになり退職後のボケ防止には碁碁は最適の趣味と思い、退職前に通信教育を受け三、四段の資格を取った。退職寸前「ろうきん友の会碁碁、将棋同好会」の立ち上げにも参加した。その後アマ五段の免状を得た。

現在はボランティアで塙山交流センターに於いて月2回程度碁碁の指導手合いをする他、以前購入してあった呉清源の「21世紀の碁」全10巻により戦術について少しずつ勉強中である。



交わす。

水、食料、毛布等総てが不十分な中、隔てない対応を頂き感謝する。翌朝列車運行不能が分る。昼過ぎ仙台行きを諦め、南下を希望する5人が探しあてたタクシーで、無事我が家にたどりついた。

海外から災害地の秩序ある行動に対する評価を聞くが、これから長い戦いが続くことになる。被災者の方々の苦難の生活の解決や復興が一日も早くなるよう、日本人の英知と誠意の結集を心から願うものである。

【編集後記】震災に遭われた方々に心よりお見舞い申し上げます。

震災により3月31日予定の日帰りバス旅行が中止になり、期待していた記事が掲載出来なかった。しかし、総会は4月14日に予定通り実施され今号に関連記事を掲載し、今年度のスタートを切ることができた。

今回の震災のような状況に置かれた時、人はごく自然に優しくなりお互いに助け合おうという気持ちになれることを強く感じた。この気持ちを大切に、我々の活動も心豊かにやって行きたいものである。

震災被害の早期回復を祈りたい。

(編集子)

発行：熟年ネット・ひたち

代表世話人 掛札 優

編集：広報グループ

住所：〒317-0072

日立市弁天町2-12-10

Tel/Fax：0294-21-1345

E-mail:jnet-hitachi@lapis.plala.or.jp

http://www10.plala.or.jp/j-neth/